

平成21年12月15日
大臣官房統計情報部社会統計課縦断調査室
室長 市川 隆之
室長補佐 吉川 英樹
(担当・内線) 中高年者調査係(内線 7594)
(電話代表) 03-5253-1111
(ダイヤルイン) 03-3595-2413

第4回中高年者縦断調査 (中高年者の生活に関する継続調査) 結果の概況

目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	3
1 家族の状況	3
1-1 配偶者及び同居者の状況	3
1-2 介護の状況	6
2 健康の状況	8
3 就業の状況	10
3-1 就業状況の変化	10
3-2 離職した者の状況	13
3-3 就業希望の状況	19
参 考	21
用語の定義	23

第4回中高年者縦断調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>)

7 結果の集計及び集計客体

(1) 結果の集計

集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部で行った。

(2) 調査客体数等

調査客体数、回収客体数は以下のとおりである。

	調査客体数	回収客体数	回収率
第1回調査	40,877	34,240	83.8%
第2回調査	35,007	32,285	92.2%
第3回調査	32,195	30,730	95.4%
第4回調査	30,773	29,605	96.2%

(3) 集計客体数

本概況では、第1回調査から第4回調査まで集計可能である28,492を集計客体とした。

8 利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	—
比率が微小(0.05未満)の場合	0.0

(2) この概況に掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) この概況に掲載の数値には、統計数が僅少のため利用する際に注意が必要なものが含まれる。

結果の概要

1 家族の状況

1-1 配偶者及び同居者の状況

単独世帯・夫婦のみの世帯が増加し、子と同居している世帯が減少した。

同居者の構成が、第1回・第4回とも同じ構成となっているのは、「単独世帯」が81.0%、「夫婦のみの世帯」が80.9%と高く、「三世代世帯」が67.8%、「親あり子なしの世帯」が66.6%と低くなっている。「三世代世帯」は、「親あり子なしの世帯」と「親なし子ありの世帯」への変化、「親あり子なしの世帯」は、「夫婦のみの世帯」と「三世代世帯」への変化の割合が高い。

「親あり子なしの世帯」では、「単独世帯」への変化も7.3%あり、同居者の構成は「単独世帯」が第1回5.5%から第4回7.6%へ、「夫婦のみの世帯」が第1回20.5%から第4回28.0%へ増加、「三世代世帯」が第1回22.6%から第4回19.0%へ、「親なし子ありの世帯」が第1回39.1%から第4回33.5%へ減少した。(表1)

第1回「配偶者なし」から第4回「配偶者あり」となった割合は6.3%で、これを性・年齢階級別にみると、女「53・54歳」が9.9%と高くなっている。第1回「配偶者あり」から第4回「配偶者なし」となった割合は、男が1.3%、女が2.2%で、女のほうが高い。(表2)

表1 同居者の構成の変化

(単位:%)

		第4回の同居者の構成							
		総数	単独世帯	夫婦のみの世帯	三世代世帯	親あり子なしの世帯	親なし子ありの世帯	その他の世帯	
第1回の同居者の構成	総数	(100.0)	100.0	7.6	28.0	19.0	10.5	33.5	1.1
	単独世帯	(5.5)	100.0	81.0	5.8	1.9	3.3	5.9	1.9
	夫婦のみの世帯	(20.5)	100.0	2.4	80.9	4.0	1.9	9.6	0.4
	三世代世帯	(22.6)	100.0	1.3	7.4	67.8	11.7	11.4	0.3
	親あり子なしの世帯	(10.5)	100.0	7.3	11.5	10.5	66.6	2.4	1.5
	親なし子ありの世帯	(39.1)	100.0	3.0	19.9	4.1	0.5	72.1	0.3
	その他の世帯	(0.9)	100.0	16.7	15.5	3.0	2.7	6.1	55.7

注:総数には同居者の構成の不詳を含む。

表2 配偶関係の変化

(単位:%)

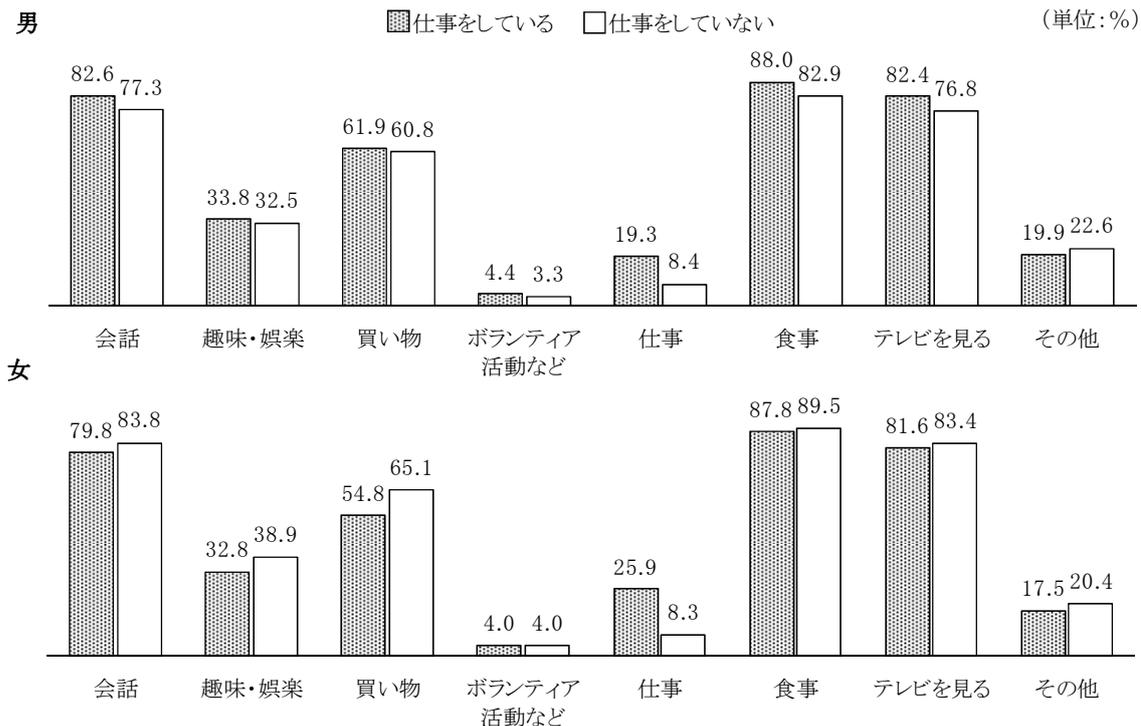
		性・第4回の配偶関係											
		総数				男			女				
		総数	配偶者あり	配偶者なし		総数	配偶者あり	配偶者なし	総数	配偶者あり	配偶者なし		
年齢階級・第1回の配偶関係	総数	(100.0)	100.0	85.7	14.1	(100.0)	100.0	87.3	12.6	(100.0)	100.0	84.3	15.5
	配偶者あり	(86.5)	100.0	98.0	1.8	(87.7)	100.0	98.5	1.3	(85.4)	100.0	97.5	2.2
	配偶者なし	(13.3)	100.0	6.3	93.6	(12.1)	100.0	6.3	93.6	(14.5)	100.0	6.4	93.6
	53・54歳	(100.0)	100.0	86.0	13.8	(100.0)	100.0	85.4	14.3	(100.0)	100.0	86.6	13.4
	配偶者あり	(86.5)	100.0	98.1	1.7	(85.9)	100.0	98.3	1.3	(87.1)	100.0	97.9	2.0
	配偶者なし	(13.3)	100.0	8.4	91.6	(13.8)	100.0	6.8	93.2	(12.9)	100.0	9.9	90.1
	55～59歳	(100.0)	100.0	85.7	14.2	(100.0)	100.0	86.8	13.1	(100.0)	100.0	84.7	15.2
	配偶者あり	(86.5)	100.0	98.1	1.8	(87.3)	100.0	98.4	1.4	(85.8)	100.0	97.8	2.1
	配偶者なし	(13.4)	100.0	6.2	93.8	(12.6)	100.0	6.5	93.4	(14.2)	100.0	5.9	94.1
	60～62歳	(100.0)	100.0	85.6	14.1	(100.0)	100.0	89.1	10.8	(100.0)	100.0	82.3	17.1
	配偶者あり	(86.6)	100.0	97.8	1.8	(89.5)	100.0	98.8	1.1	(84.0)	100.0	96.8	2.6
	配偶者なし	(13.2)	100.0	5.5	94.5	(10.4)	100.0	5.6	94.4	(15.8)	100.0	5.5	94.5

注:総数には配偶者の有無不詳を含む。

配偶者と同居している者がふだん配偶者と一緒に何をして過ごしているかについて、「あてはまる」と回答した項目は、男女とも「会話」「食事」「テレビを見る」が多い。仕事の有無別にみると、男では、「仕事をしている」で割合が高い項目が多いが、女では「仕事をしていない」で割合が高い項目が多くなっている。(図1)

ふだんの1日に配偶者と一緒に過ごす時間別に、過去1か月間に神経過敏等の6項目について感じたことの割合は、男女とも配偶者と過ごす時間が長いと低くなる傾向になっている(表3)。

図1 仕事の有無別にみたふだん配偶者と一緒にすることの割合



注：第4回に配偶者と同居している者を集計。

表3 配偶者と過ごす時間別にみた過去1か月間に感じたことの割合

	総数	神経過敏に感じた	絶望的だと感じた	そわそわ、落ち着かなく感じた	気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた	何をするのも骨折りだと感じた	自分は価値のない人間だと感じた	
男	(100.0)	100.0	44.0	22.6	34.5	38.5	39.9	21.5
男	(6.4)	100.0	47.3	29.6	41.3	46.6	46.4	27.3
男	(22.1)	100.0	46.9	23.0	37.2	41.8	42.3	22.3
男	(23.0)	100.0	43.9	21.3	33.9	38.0	39.4	21.3
男	(19.1)	100.0	43.6	21.1	32.8	37.3	39.4	20.7
男	(20.3)	100.0	42.3	22.4	33.1	35.5	37.4	18.3
女	(100.0)	100.0	51.0	25.8	37.2	44.8	44.9	24.2
女	(5.3)	100.0	56.5	34.8	44.7	53.3	54.2	31.7
女	(18.7)	100.0	53.9	26.6	40.7	49.0	49.3	26.4
女	(22.7)	100.0	51.9	24.7	36.4	44.7	45.1	22.9
女	(20.8)	100.0	50.4	24.6	36.6	43.6	43.4	21.8
女	(22.2)	100.0	48.0	23.4	34.5	41.1	41.5	21.8

注：第4回に配偶者と同居している者のうち、各項目に「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」と回答した者を集計。

1-2 介護の状況

同居している者や別居している親族に対する介護の状況をみると、第1回から「ずっと介護をしている」は2.6%、第1回から「ずっと介護をしていない」は62.1%となっている。「介護あり→なし」(第1回に介護をしていて第4回までに介護なしとなった者)は3.3%、「介護なし→あり」(第1回に介護をしていない者のうち、第4回までに介護をしている者)は6.7%となっている。

介護の状況別に第1回からの就業状況の変化をみると、「ずっと仕事あり」は「ずっと介護をしている」が52.9%と低く、「ずっと介護をしていない」が71.8%と高くなっている。「退職」(第1回で仕事をしていて第4回までに仕事なしとなった者)は「介護なし→あり」が11.8%と高く、「ずっと介護をしていない」が7.9%と低い。(表5)

表5 介護の状況別にみた就業状況の変化

(単位:%)

	第1回からの就業状況の変化						
	総数	ずっと仕事あり	就業	退職	ずっと仕事なし	その他	
総数	(100.0)	100.0	69.0	3.3	8.5	13.8	5.3
ずっと介護をしている	(2.6)	100.0	52.9	3.7	9.7	28.4	5.3
介護あり→なし	(3.3)	100.0	61.9	3.6	8.8	21.3	4.4
介護なし→あり	(6.7)	100.0	63.2	3.3	11.8	16.4	5.3
ずっと介護をしていない	(62.1)	100.0	71.8	3.1	7.9	12.3	4.9
その他	(6.2)	100.0	65.6	3.7	9.3	15.3	6.1
不詳	(19.1)	100.0	66.3	3.9	8.6	14.1	6.5
(参考) 第4回 介護をしている	(11.6)	100.0	61.9	3.5	10.7	18.6	5.4
第4回 介護をしていない	(78.8)	100.0	70.4	3.2	8.1	13.1	5.1

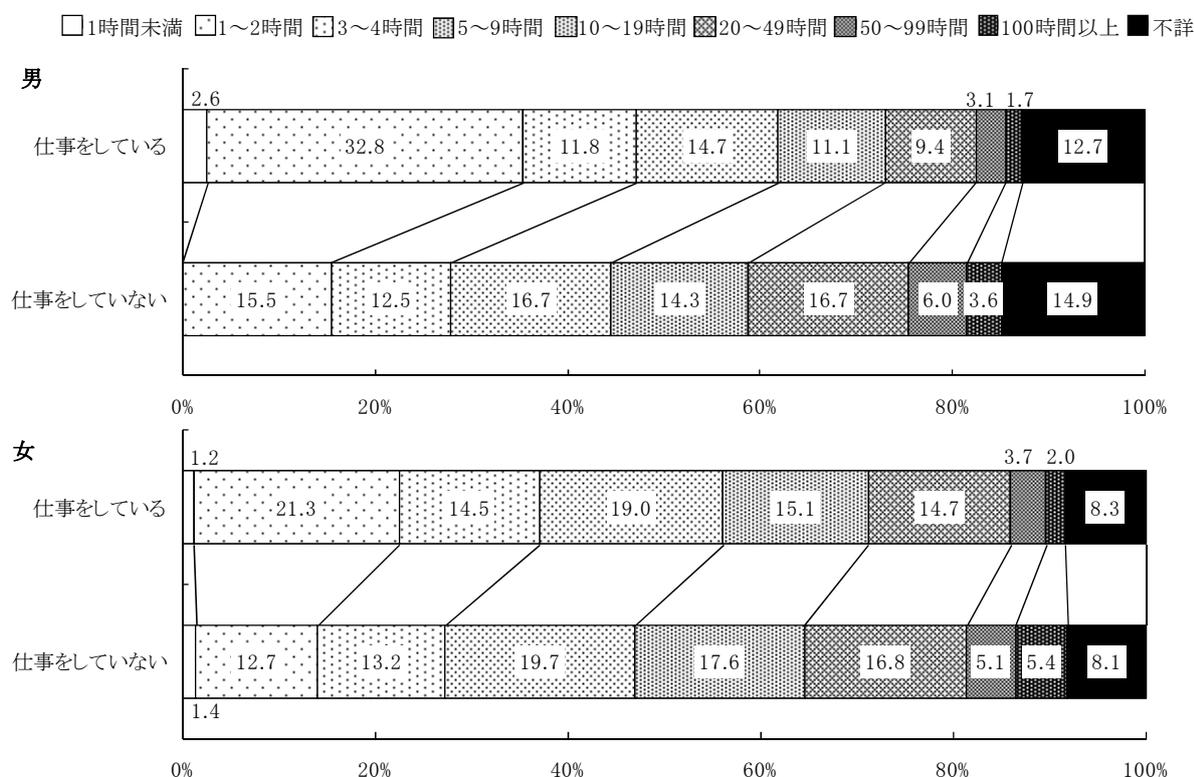
注:総数には第1回からの就業状況の変化不詳を含む。

「ずっと介護をしている」では、過去1か月間に神経過敏等の6項目について感じた割合が高い。

仕事の有無別に1週間の介護時間をみると、「仕事をしている」では「1～2時間」が男 32.8%、女 21.3%となっており、「仕事をしていない」に比べて介護時間が短い割合が高くなっている。性別に比較すると「仕事をしている」「仕事をしていない」とも女の介護時間の長い割合が高くなっているが、「仕事をしていない」では性別の差が小さくなっている。(図3)

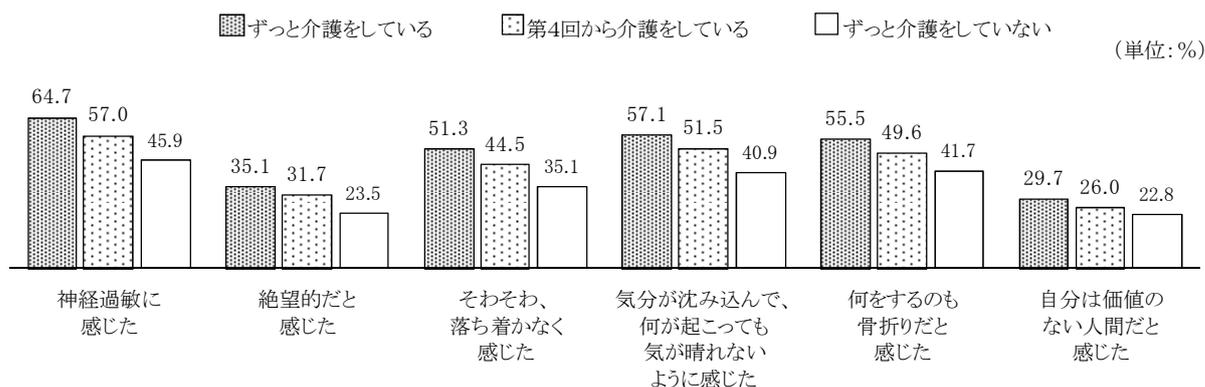
第1回からの介護の有無別に、過去1か月間に神経過敏等の6項目について感じたことの割合をみると、どの項目でも第1回から「ずっと介護をしていない」に比べて「第4回から介護をしている」で高く、第1回から「ずっと介護をしている」では、「第4回から介護をしている」よりもさらに高くなっている(図4)。

図3 仕事の有無別にみた1週間の介護時間



注:第4回に介護をしている者を集計。

図4 第1回からの介護の有無別にみた過去1か月間に感じたことの割合



注:各項目に「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」と回答した者を集計。

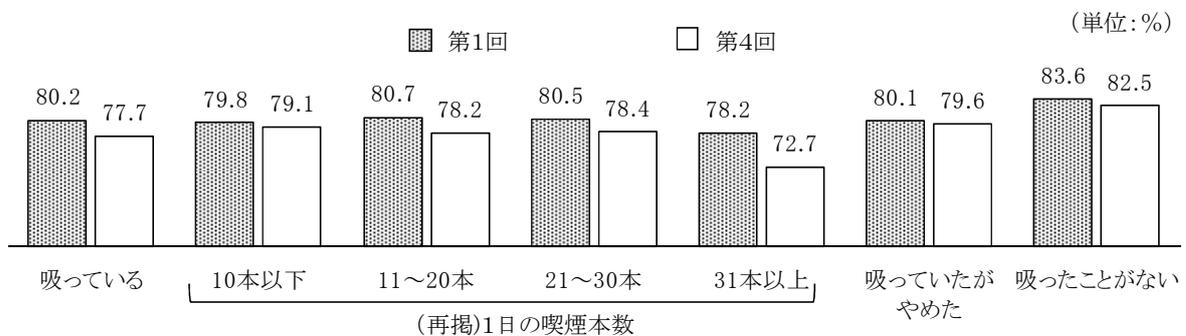
2 健康の状況

第1回の喫煙の状況別にみると、たばこを「吸ったことがない」と回答した者の健康状態がよい。

第1回の喫煙の状況別に第4回の健康状態が「よい」の割合をみると、「吸ったことがない」の82.5%が高くなっている。第1回の健康状態が「よい」の割合は、「吸っている」が80.2%、「吸っていたがやめた」が80.1%と同程度であったが、第4回では「吸っている」の77.7%に比べ、「吸っていたがやめた」が79.6%とやや高くなっている。(図5)

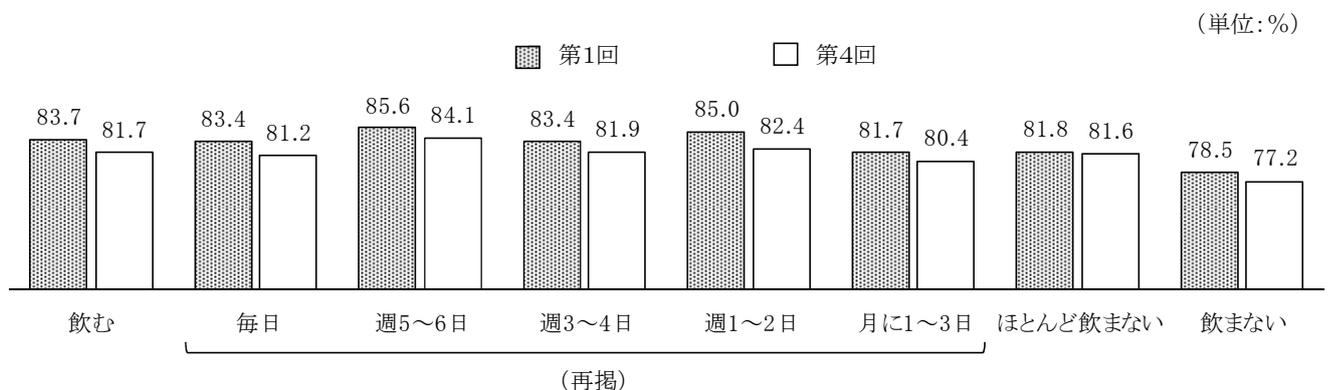
第1回の飲酒の状況別に第4回の健康状態が「よい」の割合をみると、「よい」の割合は、第1回に比べて第4回で低くなっているが、「ほとんど飲まない」では、あまり低くなっていない(図6)。

図5 第1回の喫煙の状況別にみた健康状態が「よい」の割合



- 注：1) 第1回の喫煙の状況による集計である。
 2) 「よい」は、調査時の健康状態が「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかをいう。
 3) 健康状態は医師の診断によるものではなく、本人の回答による。

図6 第1回の飲酒の状況別にみた健康状態が「よい」の割合



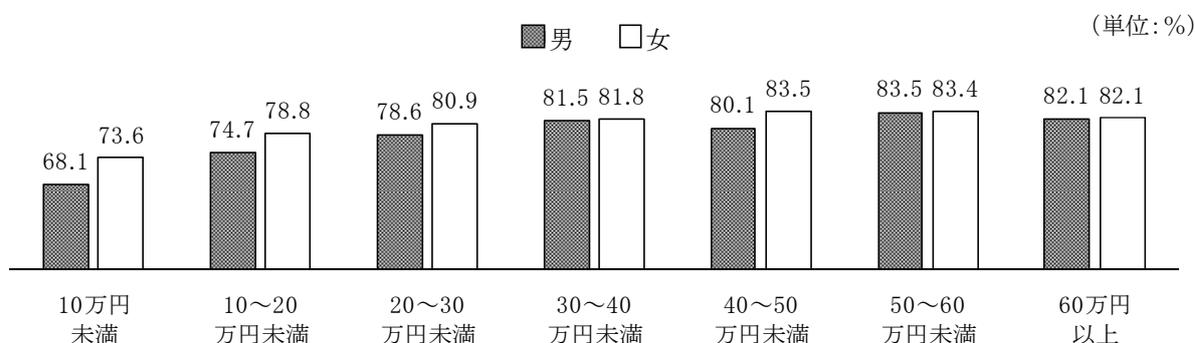
- 注：1) 第1回の飲酒の状況による集計である。
 2) 「よい」は、調査時の健康状態が「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかをいう。
 3) 健康状態は医師の診断によるものではなく、本人の回答による。

健康状態が第1回からよい割合は、第1回に健康維持のための費用を「かけている」者で高い。

第1回の家計支出額別に第4回の健康状態が「よい」の割合をみると、「50～60万円未満」では男83.5%、女83.4%となっており、家計支出額が多い階級で高い傾向になっている(図7)。

第1回の健康維持のための費用の有無別に第1回からの健康状態の変化をみると、第1回から「ずっとよい」の割合は、健康維持のための費用を「かけている」で高くなっている(表6)。

図7 第1回の家計支出額別にみた第4回の健康状態が「よい」の割合



注：1) 「よい」は、調査時の健康状態が「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかをいう。
2) 健康状態は医師の診断によるものではなく、本人の回答による。

表6 第1回の健康維持のための費用の有無と健康状態の変化

		第1回からの健康状態の変化						
		総数	ずっとよい	わるい→よい	ずっとわるい	よい→わるい	その他の変化	
第1回 の 費用 の有 無	男	(100.0)	100.0	62.4	6.9	6.5	7.9	13.0
	かけている	(19.1)	100.0	64.7	7.5	5.5	7.1	12.3
	かけていない	(79.1)	100.0	62.3	6.6	6.7	8.1	13.1
	女	(100.0)	100.0	64.8	6.1	6.0	7.4	12.4
	かけている	(27.6)	100.0	66.0	6.3	5.8	6.7	12.2
	かけていない	(70.6)	100.0	64.8	6.0	5.9	7.7	12.4

注：1) 総数には第1回からの健康状態の変化不詳、第1回の健康維持のための費用の有無不詳を含む。
2) 「ずっとよい」は、第1回から第4回まで健康状態が「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかをいう。
3) 「ずっとわるい」は、第1回から第4回まで健康状態が「大変悪い」「悪い」「どちらかといえば悪い」のいずれかをいう。
4) 健康状態は医師の診断によるものではなく、本人の回答による。

3 就業の状況

3-1 就業状況の変化

60～62歳の男 80.6%、女 52.6%が仕事をしている。

60～62歳の男では、他の年齢階級と比べ「正規の職員・従業員」の割合が低く、「パート・アルバイト」「契約社員・嘱託」の割合が高い。

第4回に「仕事をしている」割合は男 88.9%、女 64.0%で、年齢階級別にみると、「53・54歳」の男 94.3%、女 74.1%、「60～62歳」の男 80.6%、女 52.6%と、年齢階級が低いほうで高くなっている。

仕事のかたち別に「60～62歳」の割合をみると、「正規の職員・従業員」は男 20.2%、女 6.4%で、他の年齢階級より低い。「契約社員・嘱託」は男では 17.3%と他の年齢階級より高いが、女は 3.5%と他の年齢階級と同程度となっている。「パート・アルバイト」は男 8.7%で他の年齢階級より高いが、女は 22.4%で、他の年齢階級より低い。(表7)

第1回からの就業状況の変化をみると、「ずっと仕事あり」は男 83.4%、女 55.6%となっている。「退職」(第1回で仕事をしていて第4回までに仕事なしとなった者)の割合は「60～62歳」で高く、男 13.0%、女 14.4%となっている。男の「60～62歳」では、転職した(「ずっと仕事あり・(再掲)離職あり」)割合も 15.7%と高くなっている。(表8)

表7 第4回の仕事の有無・仕事のかたち

(単位:%)

	総数	仕事をしている	仕事のかたち									仕事をしていない
			自営業主	家族従業者	会社の役員・団体等	正規の職員・従業員	パート・アルバイト	労働者派遣事業所	契約社員・嘱託	家庭内職など	その他	
男	100.0	88.9	20.6	0.6	7.8	43.9	4.8	0.8	8.3	0.1	1.9	11.1
53・54歳	100.0	94.3	18.7	0.5	7.3	59.8	1.9	0.9	3.6	0.0	1.6	5.6
55～59歳	100.0	92.1	20.4	0.4	7.6	53.0	3.5	0.7	4.4	0.1	1.9	7.9
60～62歳	100.0	80.6	21.8	0.8	8.2	20.2	8.7	1.1	17.3	0.1	2.2	19.4
女	100.0	64.0	5.3	8.1	1.9	14.1	27.5	0.5	3.6	1.2	1.7	36.0
53・54歳	100.0	74.1	4.3	7.2	1.8	21.2	31.9	0.4	4.5	0.9	1.9	25.9
55～59歳	100.0	67.5	5.2	8.1	1.9	16.5	29.1	0.5	3.4	1.2	1.5	32.4
60～62歳	100.0	52.6	6.0	8.5	1.8	6.4	22.4	0.4	3.5	1.5	1.9	47.4

注: 総数には仕事の有無不詳、仕事をしているには仕事のかたち不詳を含む。

表8 就業状況の変化

(単位:%)

	第1回からの就業状況の変化									
	総数	ずっと仕事あり	(再掲)離職なし	(再掲)離職あり	就業	退職	(再掲)定年退職	ずっと仕事なし	(再掲)離職なし	その他
男	100.0	83.4	69.5	9.8	2.0	6.7	2.0	3.5	2.8	4.3
53・54歳	100.0	89.5	78.6	7.3	1.7	2.8	0.0	2.3	1.6	3.7
55～59歳	100.0	87.3	76.2	7.1	1.8	4.1	0.2	3.0	2.3	3.7
60～62歳	100.0	73.6	53.5	15.7	2.3	13.0	6.1	5.2	4.3	5.7
女	100.0	55.6	46.4	6.7	4.6	10.1	1.5	23.3	19.4	6.1
53・54歳	100.0	64.5	54.3	7.6	5.5	6.8	-	16.4	13.6	6.6
55～59歳	100.0	59.0	49.7	6.7	4.6	8.6	0.2	21.3	17.8	6.3
60～62歳	100.0	45.3	36.6	6.3	4.1	14.4	4.5	30.4	25.0	5.6

注: 総数には第1回からの就業状況の変化不詳を含む。

男の「ずっと仕事あり」は、三世帯世帯や収入のない同居の子がいる場合に多い。

第4回の同居者の構成別に第1回からの就業状況の変化をみると、「ずっと仕事あり」は、男では「三世帯世帯」88.5%、「親なし子ありの世帯」87.2%が高く、「単独世帯」が 69.3%と低くなっている。女では「単独世帯」が65.6%と高く、「夫婦のみの世帯」が49.8%と低い。「退職」は、男では「三世帯世帯」が4.6%と低くなっているが、女では同居者の構成による差はあまりない。(表9)

第1回・第4回の収入のない同居の子の有無別に第1回からの就業状況の変化をみると、男の「ずっと仕事あり」は「第1回あり・第4回あり」の 91.0%が高く、「ずっと仕事なし」は「第1回なし・第4回なし」の 2.7%が高くなっている。女の「ずっと仕事あり」は「第1回あり・第4回なし」の 58.0%が高く、「ずっと仕事なし」は「第1回あり・第4回あり」の 25.6%が高くなっている。(表10)

表9 同居者の構成別にみた就業状況の変化

(単位:%)

	性・第1回からの就業状況の変化													
	男						女							
	総数	ずっと仕事あり	就業	退職	ずっと仕事なし	その他	総数	ずっと仕事あり	就業	退職	ずっと仕事なし	その他		
総数	(100.0)	100.0	83.4	2.0	6.7	3.5	4.3	(100.0)	100.0	55.6	4.6	10.1	23.3	6.1
単独世帯	(7.9)	100.0	69.3	3.9	8.2	12.6	5.8	(7.4)	100.0	65.6	4.5	10.0	14.2	5.3
夫婦のみの世帯	(25.9)	100.0	81.8	2.1	8.0	2.6	5.4	(29.9)	100.0	49.8	4.8	10.6	27.6	6.9
三世帯世帯	(20.0)	100.0	88.5	1.5	4.6	1.8	3.6	(18.2)	100.0	61.6	4.6	10.4	18.3	4.9
親あり子なしの世帯	(11.5)	100.0	78.9	2.0	8.2	6.1	4.6	(9.6)	100.0	60.3	3.9	10.2	20.0	5.5
親なし子ありの世帯	(33.4)	100.0	87.2	1.6	5.9	1.9	3.4	(33.5)	100.0	54.1	4.6	9.4	25.2	6.6
その他の世帯	(1.1)	100.0	60.8	3.9	11.8	17.0	5.9	(1.0)	100.0	59.7	2.0	14.1	20.8	3.4

注:総数には第1回からの就業状況の変化不詳、同居者の構成不詳を含む。

表10 収入のない同居の子の状況別にみた就業状況の変化

(単位:%)

	性・第1回からの就業状況の変化													
	男						女							
	総数	ずっと仕事あり	就業	退職	ずっと仕事なし	その他	総数	ずっと仕事あり	就業	退職	ずっと仕事なし	その他		
収入のない同居の子の状況														
総数	(100.0)	100.0	85.9	1.6	6.2	2.2	4.0	(100.0)	100.0	55.9	4.6	10.2	23.2	6.1
第1回あり・第4回あり	(20.0)	100.0	91.0	1.5	3.5	1.1	2.8	(11.2)	100.0	53.9	5.9	8.1	25.6	6.5
第1回あり・第4回なし	(16.1)	100.0	87.4	1.6	5.2	2.1	3.6	(12.3)	100.0	58.0	5.4	8.9	22.4	5.2
第1回なし・第4回あり	(4.2)	100.0	86.3	1.1	5.6	1.3	5.6	(3.9)	100.0	55.9	4.7	10.7	21.5	6.8
第1回なし・第4回なし	(56.2)	100.0	83.5	1.7	7.7	2.7	4.2	(69.6)	100.0	55.9	4.3	10.7	23.1	6.0
(参考) 第4回 子あり		100.0	85.9	1.6	6.2	2.2	4.0		100.0	55.9	4.6	10.1	23.1	6.1
第4回 子なし		100.0	72.1	3.6	8.7	9.5	5.7		100.0	54.0	4.3	9.9	24.3	6.5

注: 1) 「収入のない同居の子の状況」については、第1回、第4回とも子がいる者を集計。

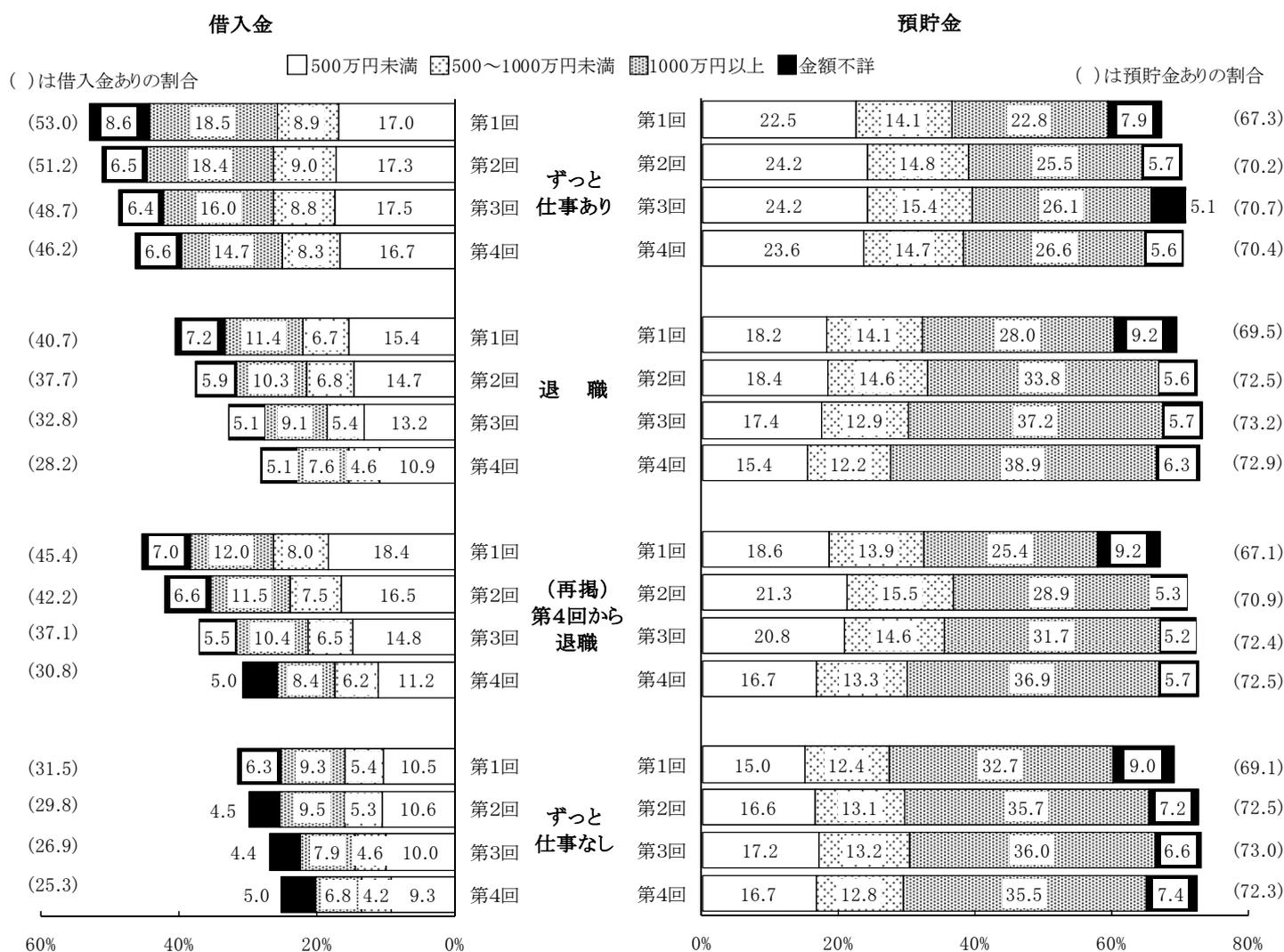
2) 総数には第1回からの就業状況の変化不詳、子ありには子の収入の有無不詳を含む。

借入金がある割合は第1回から減少し、預貯金がある割合は第4回で減少した。

借入金ありの割合は、第1回からの就業状況の変化を問わず減少している。就業状況の変化別に第4回の借入金ありの割合をみると、「ずっと仕事あり」が46.2%と高く、「ずっと仕事なし」が25.3%と低くなっている。第1回から第3回まで仕事をしていて第4回に退職した者(「(再掲)第4回から退職」)では、借入金ありの割合が第3回37.1%から第4回30.8%と他の就業状況の変化と比べて大きく減少している。

預貯金ありの割合は、第1回から第3回まで少しずつ増加していたが、第4回でやや減少している。就業状況の変化別に第4回の預貯金ありの割合をみると、「退職」が72.9%、「ずっと仕事なし」が72.3%と高くなっている。「(再掲)第4回から退職」では預貯金額「1000万円以上」の割合が、第3回31.7%から第4回36.9%と他の就業状況の変化と比べて大きく増加している。(図8)

図8 就業状況の変化別にみた借入金・預貯金の状況



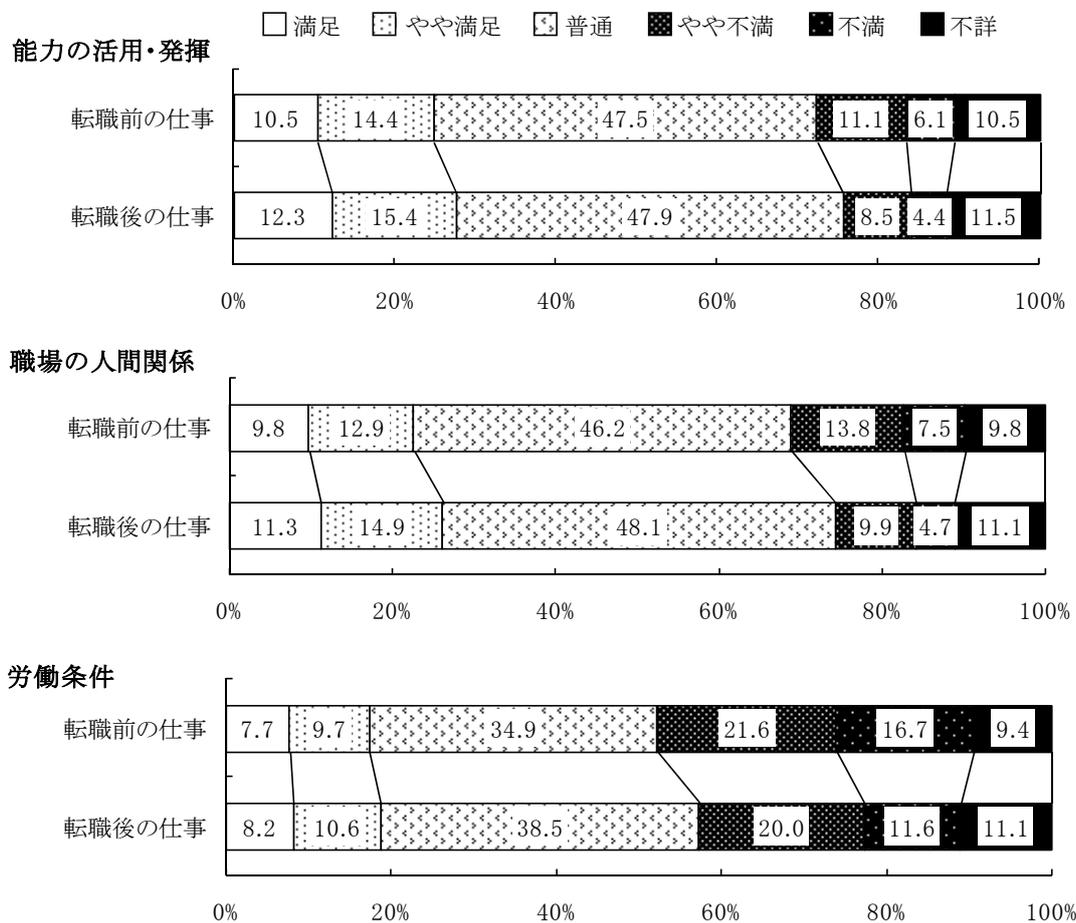
注:総数には借入金の有無不詳、預貯金の有無不詳を含む。

3-2 離職した者の状況

転職後の仕事への満足感は、転職前の仕事より高くなっている。

第1回から第4回までに転職した者のうち、その前後の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」であった者の仕事への満足感をみると、「満足」の割合は「能力の活用・発揮」が転職前の仕事 10.5%、転職後の仕事 12.3%、「職場の人間関係」が転職前の仕事 9.8%、転職後の仕事 11.3%、「労働条件」が転職前の仕事 7.7%、転職後の仕事 8.2%と、どの項目でも転職前の仕事に比べて高くなっている(図9)。

図9 転職前後の仕事への満足感



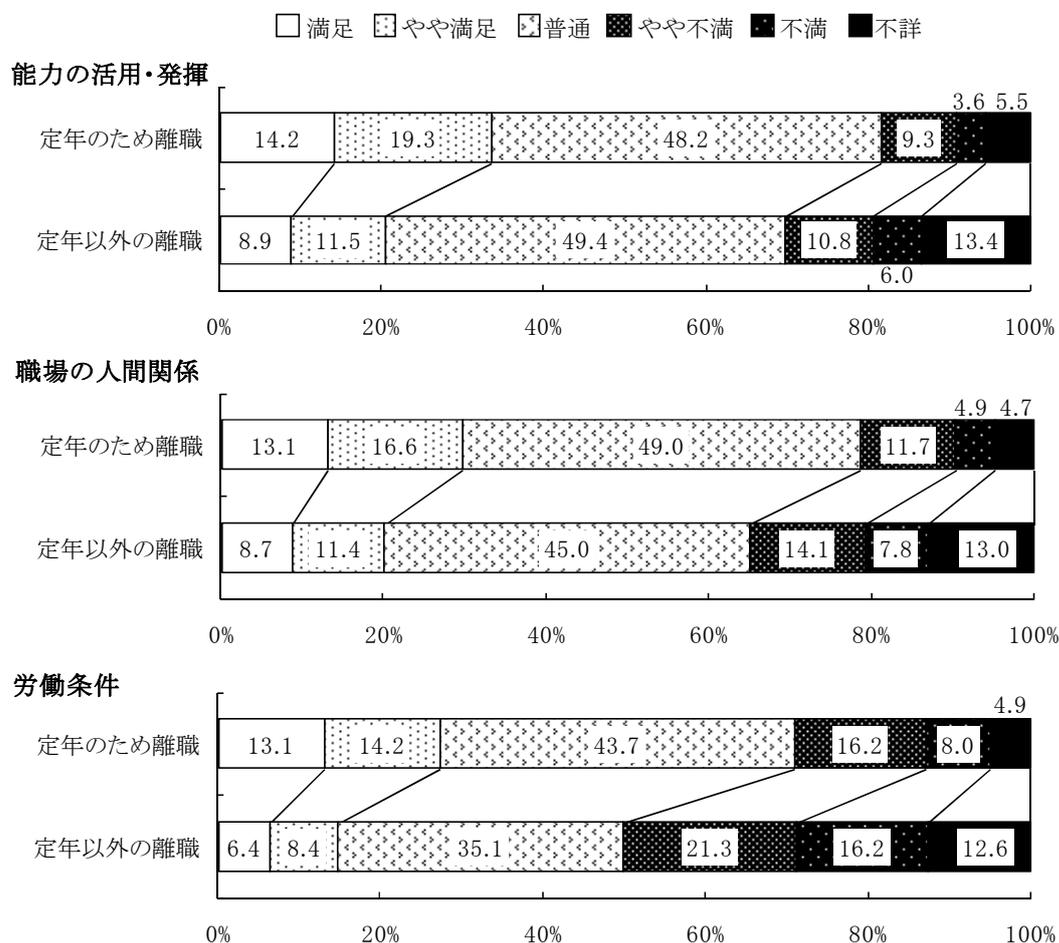
注：1) 第1回から第4回までに転職した者のうち、その前後の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」の者についての集計。

2) 「転職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回、「転職後」とは仕事をやめた経験があった回の状況である。

定年まで働いた者では、やめる前の仕事への満足感が高い。

第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者のうち、離職前の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」であった者の離職前の仕事への満足感をみると、仕事をやめた理由に「定年のため」と回答した者（「定年のため離職」）の「満足」の割合は、「能力の活用・発揮」14.2%、「職場の人間関係」13.1%、「労働条件」13.1%で、「定年以外の離職」より高くなっている（図10）。

図10 離職前の仕事への満足感

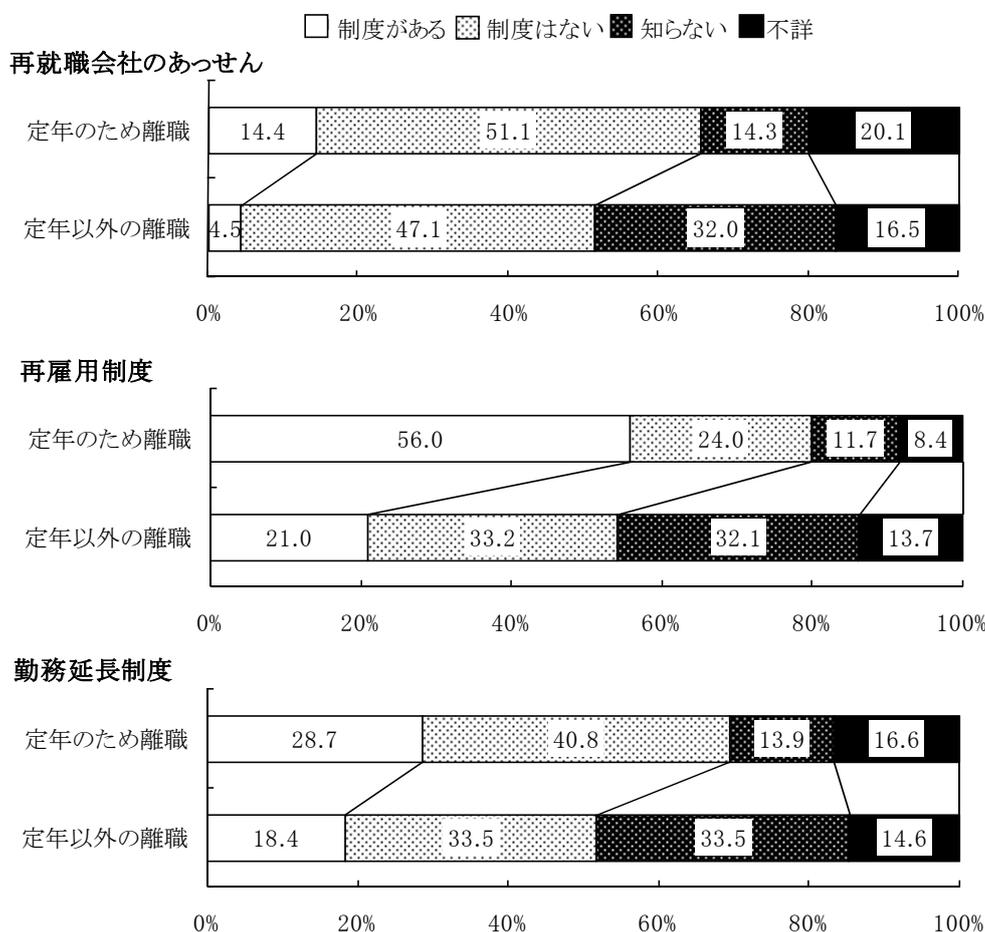


注：1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者のうち、離職前の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」であった者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 3) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

定年まで働いた者では、高年齢者の雇用に関する制度の有無について「知らない」と回答する割合が低い。

第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者のうち、離職前の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」であった者の離職前の勤め先の制度をみると、「制度がある」の割合は「定年のため離職」で高く、「再就職会社のあるあつせん」14.4%、「再雇用制度」56.0%、「勤務延長制度」28.7%となっている。また、「定年のため離職」では、「知らない」の割合が「定年以外の離職」より低くなっている。(図11)

図11 離職前の勤め先の制度

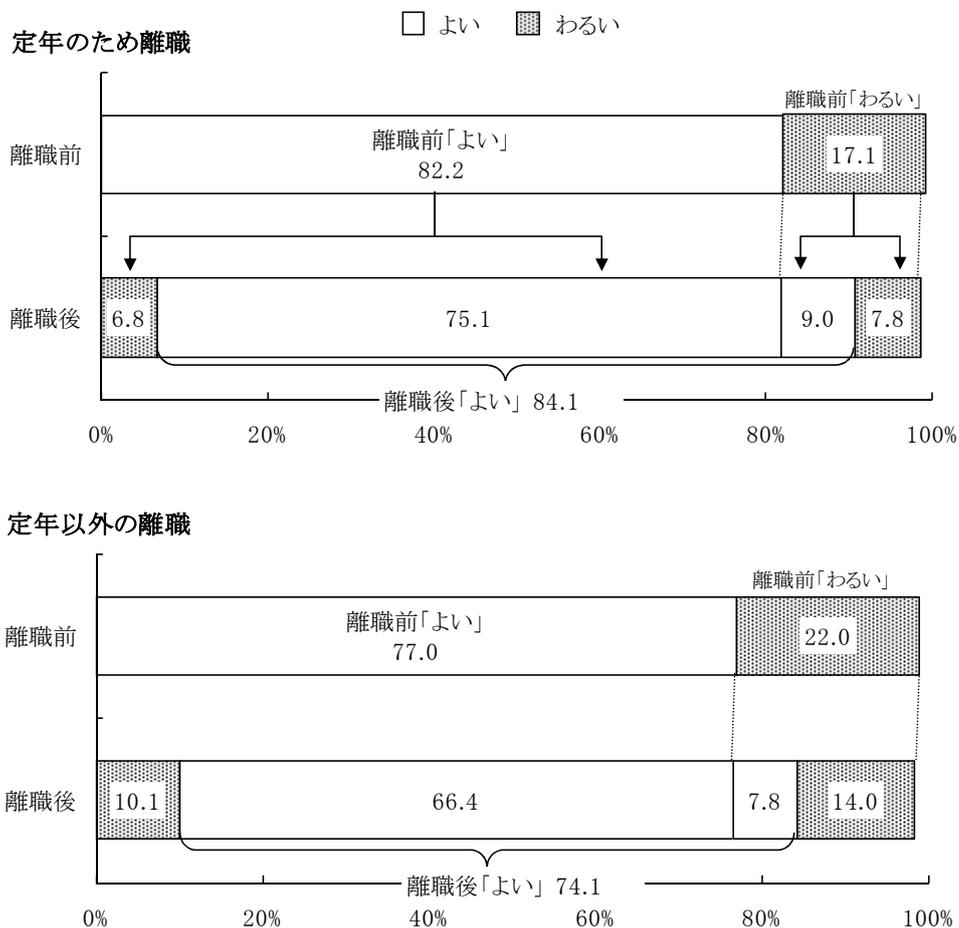


注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者のうち、離職前の仕事のかたちが「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員・嘱託」であった者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 3) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

定年まで働いた者では、やめた後の健康状態がよい割合が高い。

第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者の離職前後の健康状態をみると、離職前「よい」から離職後「わるい」となった割合は、「定年のため離職」6.8%、「定年以外の離職」10.1%で「定年のため離職」で低く、離職前「わるい」から離職後「よい」となった割合は、「定年のため離職」9.0%、「定年以外の離職」7.8%と「定年のため離職」で高い。「定年のため離職」では、健康状態の「よい」の割合は「離職前」82.2%から「離職後」84.1%と高くなっている。(図12)

図12 離職前後の健康状態



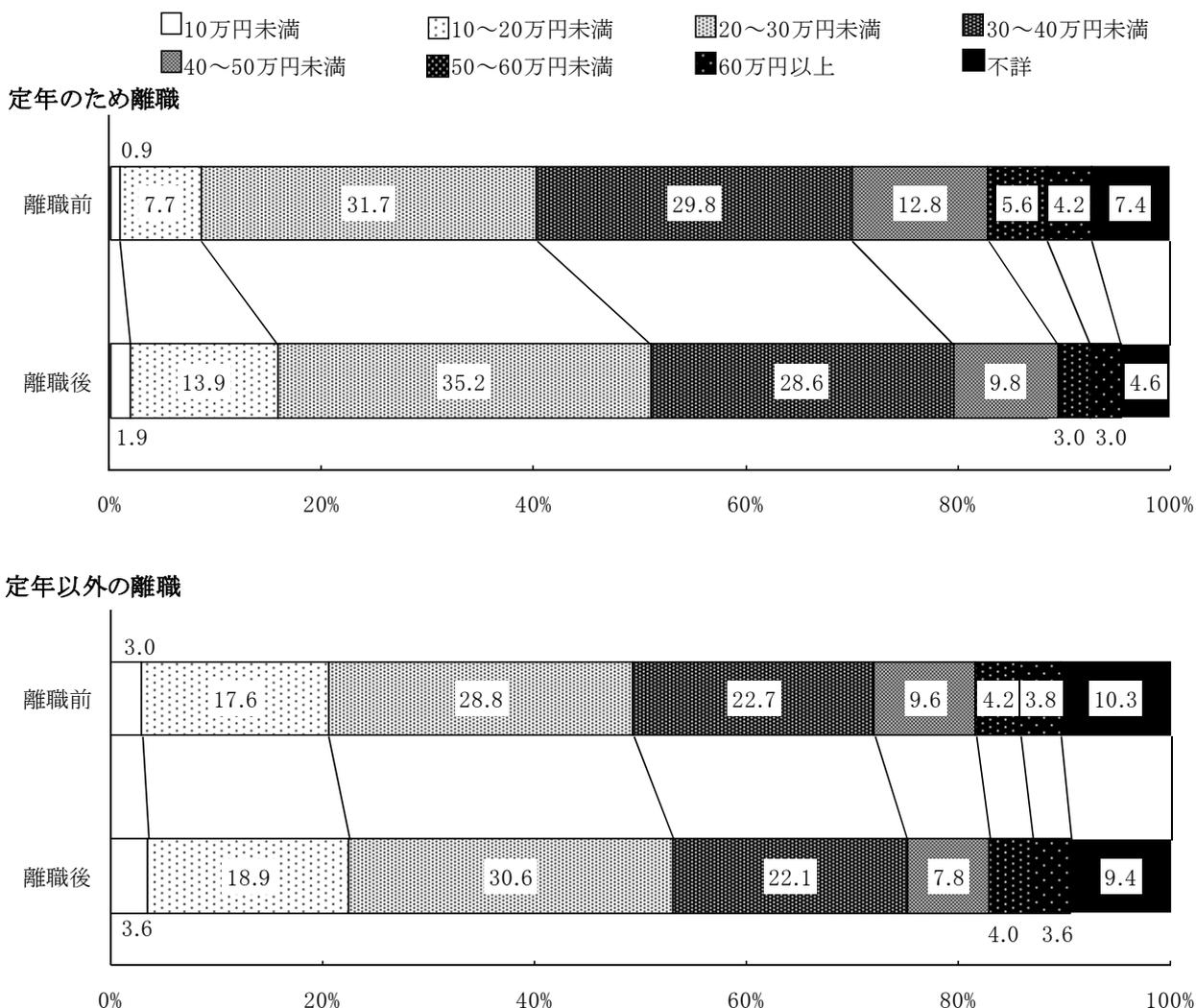
- 注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 総数には健康状態の不詳を含む。
 3) 「よい」は健康状態が「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれか、「わるい」は健康状態が「どちらかといえば悪い」「悪い」「大変悪い」のいずれかをいう。
 4) 健康状態は医師の診断によるものではなく、本人の回答による。
 5) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 6) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

離職前後の家計支出額は、定年まで働いた者で大きく変化している。

離職前の家計支出をみると、「定年のため離職」は「定年以外の離職」に比べて家計支出額の多い階級の割合が高くなっている。

離職後の家計支出は、「定年のため離職」「定年以外の離職」とも離職前より家計支出額の少ない階級の割合が高くなっているが、「定年のため離職」では、「10～20万円未満」の割合が「離職前」7.7%から「離職後」13.9%、「20～30万円未満」が「離職前」31.7%から「離職後」35.2%と増加しており、「定年以外の離職」より割合の変化が大きくなっている。(図13)

図13 離職前後の家計支出額



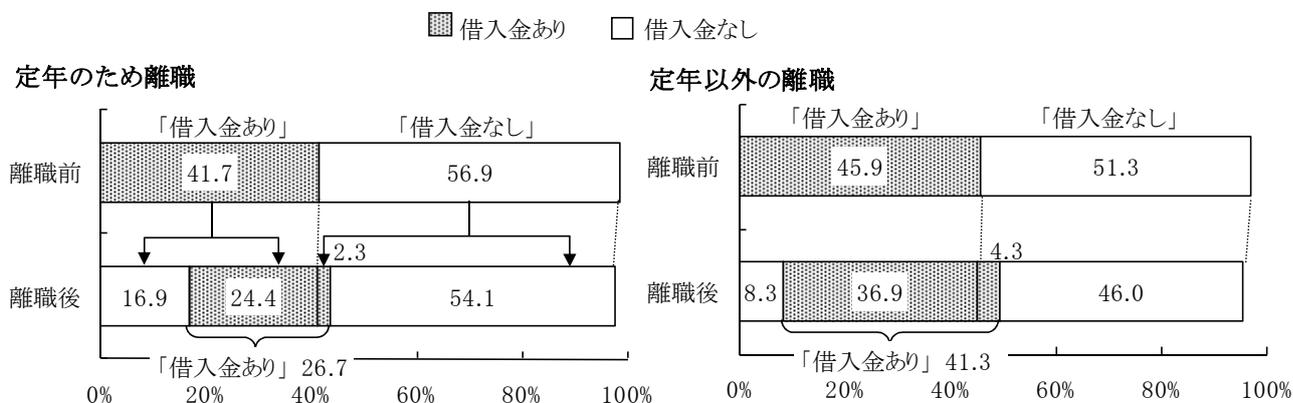
注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 3) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

離職前後の「借入金あり」の割合は、定年まで働いた者で大きく減少している。

離職前後の借入金の有無をみると、「借入金あり」の割合は、「定年のため離職」では離職前 41.7%、離職後 26.7%、「定年以外の離職」では離職前 45.9%、離職後 41.3%で、「定年のため離職」では離職後の「借入金あり」の割合が低くなっている(図14)。

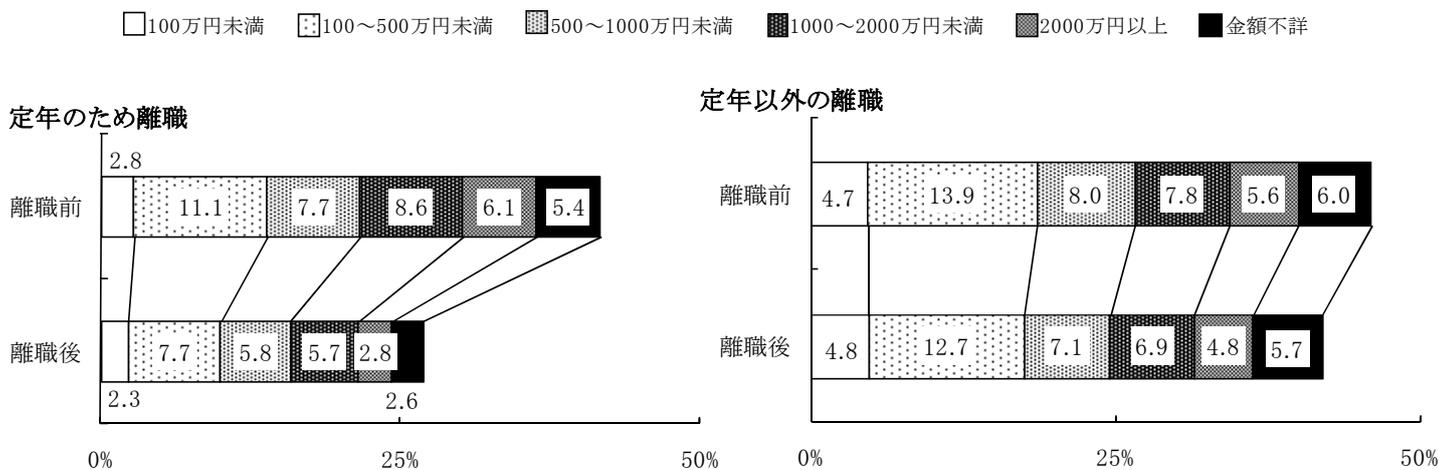
借入金額を離職前後で比較すると、「定年以外の離職」では「100万円未満」以外の各金額階級で同程度減少しているが、「定年のため離職」では「定年以外の離職」と比べて借入金額の多い階級の割合で大きく減少している(図15)。

図14 離職前後の借入金の有無



- 注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 総数には借入金の有無不詳を含む。
 3) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 4) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

図15 離職前後の借入金額



- 注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 総数には借入金の有無不詳を含む。
 3) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 4) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

3-3 就業希望の状況

就業を希望して仕事についての割合は、前回より減少した。

第3回仕事なしのうち、「仕事をしたい」は男 52.9%、女 33.8%で、このうち、第4回に「仕事をしている」割合は、男 28.5%、女 18.2%で、どちらも男のほうが高くなっている。「仕事をしたくない」の「仕事をしている」割合は男 15.0%、女 5.3%となっており、男女とも就業希望があった者のほうが仕事ありの割合が高い。(表11)

就業を希望していた者の仕事についての割合は、「第2回仕事なし・第3回に仕事あり」では「第1回仕事なし・第2回仕事あり」より高くなっているが、「第3回仕事なし・第4回に仕事あり」では「第2回仕事なし・第3回に仕事あり」より低くなっている(図16)。

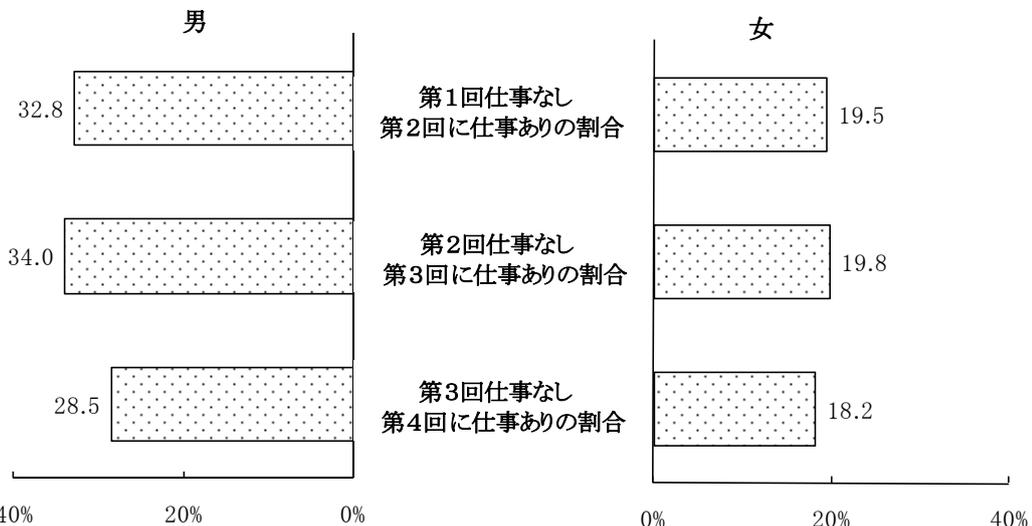
表11 就業希望の有無別にみた仕事の有無

(単位: %)

	次の回の仕事の有無							
	男			女				
	総数	仕事をしている	仕事をしていない	総数	仕事をしている	仕事をしていない		
第1回仕事なし	(100.0)	100.0	29.0	70.7	(100.0)	100.0	12.9	87.0
仕事をしたい	(66.8)	100.0	32.8	66.8	(43.7)	100.0	19.5	80.5
仕事をしたくない	(29.8)	100.0	21.6	78.4	(53.2)	100.0	7.2	92.7
第2回仕事なし	(100.0)	100.0	30.5	69.3	(100.0)	100.0	11.8	88.2
仕事をしたい	(58.0)	100.0	34.0	66.0	(37.8)	100.0	19.8	80.2
仕事をしたくない	(36.2)	100.0	23.0	77.0	(59.2)	100.0	6.4	93.6
第3回仕事なし	(100.0)	100.0	24.8	75.2	(100.0)	100.0	10.2	89.8
仕事をしたい	(52.9)	100.0	28.5	71.5	(33.8)	100.0	18.2	81.8
仕事をしたくない	(40.8)	100.0	15.0	85.0	(62.8)	100.0	5.3	94.7

注：1) 各回の仕事をしていない者についての集計。
2) 総数には、就業希望の有無不詳、次の回の仕事の有無不詳を含む。

図16 就業希望がある者の仕事ありの割合



注：各回の就業希望がある者について集計。

仕事を探していない理由の「希望する仕事がありそうにない」が前回より増えた。

各回に仕事をしていない者の「仕事をしたい」割合は、第1回から減少しており、第4回では 36.0%となっている。就業を希望している者について仕事探し等の状況を見ると、「仕事探し・開業準備をしている」の割合が第1回からやや減少し、「何もしていない」の割合が増加傾向となっている。(表12)

各回の就業を希望している者のうち、仕事探し・開業準備など「何もしていない」者の仕事を探していない理由をみると、各回とも「病気・けがのため」の割合が高くなっている。第4回の「希望する仕事がありそうにない」は 15.6%と、第3回 13.7%に比べ増えている。(図17)

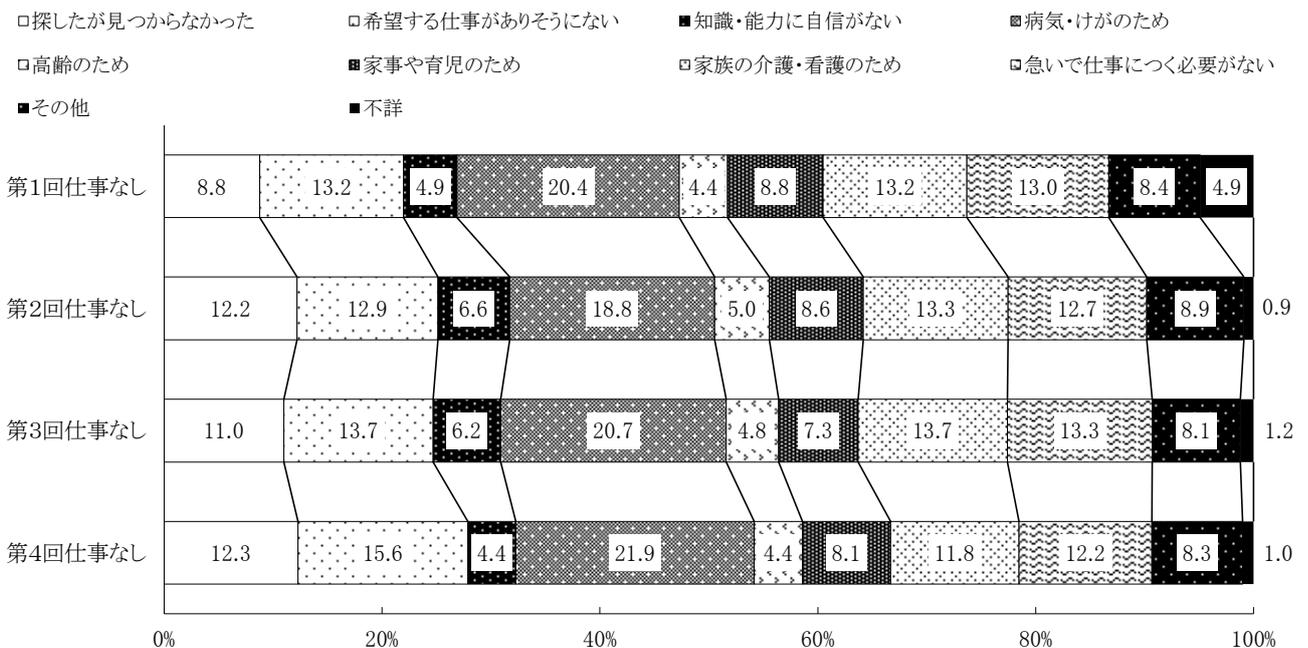
表12 仕事をしていない者の就業希望及び求職状況

(単位:%)

	第1回	第2回	第3回	第4回
総数	100.0	100.0	100.0	100.0
仕事をしたい	47.3 (100.0)	41.6 (100.0)	37.7 (100.0)	36.0 (100.0)
仕事探し・開業準備をしている	(43.3)	(42.7)	(42.5)	(41.3)
何もしていない	(55.4)	(54.6)	(55.2)	(56.5)
仕事をしたくない	49.5	54.9	58.4	60.9

注：1) 各回の仕事をしていない者についての集計。
2) 総数には、就業状況の不詳、求職状況の不詳を含む。

図17 就業希望がある者の仕事を探していない理由



注：各回の就業を希望している者のうち、仕事探し・開業準備などをしていない者について集計。

参 考

参考 1

各図表の集計客体数は、下記のとおり。

図表番号	集計対象	客体数		
		総数	男	女
下記の 図表以外	第1回から第4回まで回答した者	28 492	13 692	14 800
	53・54歳	4 762	2 252	2 510
	55～59歳	14 809	7 159	7 650
	60～62歳	8 921	4 281	4 640
図1・表3	第4回に配偶者と同居している者	23 635	11 588	12 047
図3	第4回に介護をしている者			
	仕事をしている	2 267	1 032	1 235
	仕事をしていない	1 032	168	864
図4	ずっと介護をしている	753	-	-
	第4回から介護をしている	930	-	-
	ずっと介護をしていない	17 694	-	-
表10	第1回・第4回とも子がいる者	23 744	11 088	12 656
図9	第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある			
	離職前後の仕事のかたちが			
	「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」 「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」 「契約社員・嘱託」	2 467	-	-
図10・11	第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある			
	離職前の仕事のかたちが			
	「会社・団体等の役員」「正規の職員・従業員」 「パート・アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」 「契約社員・嘱託」	5 838	-	-
	定年のため離職	1 256	-	-
	定年以外の離職	4 582	-	-
図12～ 15	第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある	7 344	-	-
	定年のため離職	1 294	-	-
	定年以外の離職	6 050	-	-
表11・12	第1回仕事なし	5 317	840	4 477
	第2回仕事なし	5 712	1 059	4 653
	第3回仕事なし	6 179	1 239	4 940
	第4回仕事なし	6 846	1 522	5 324

参考 2

図表に掲載した項目の構成割合は、下記のとおり。

図2 子の状況 (単位:%)

	子の状況				
	総数	子あり	(再掲) 収入のない同居の子あり		子なし
男	100.0	81.9		20.4	18.1
女	100.0	86.6		13.2	13.4

図5～7関連 第4回の健康状態 (単位:%)

	総数	よい				わるい			
			大変良い	良い	どちらかといえ ば良い		どちらかといえ ば悪い	悪い	大変悪い
総数	100.0	80.4	5.8	31.2	43.4	18.7	14.5	3.4	0.7
男	100.0	79.5	6.5	31.3	41.7	19.5	15.3	3.5	0.7
女	100.0	81.2	5.2	31.0	45.0	17.9	13.8	3.3	0.7

注: 総数には健康状態の不詳を含む。

図5 第1回の喫煙の状況 (単位:%)

	第1回の喫煙の状況							
	総数	吸っている					吸っていた がやめた	吸ったこと がない
			10本以下	11～20本	21～30本	31本以上		
総数	100.0	29.1	4.0	12.7	8.8	3.5	21.7	48.1

注: 総数には喫煙の状況不詳を含む。

図6 第1回の飲酒の状況 (単位:%)

	第1回の飲酒の状況								
	総数	飲む						ほとんど 飲まない	飲まない
			毎日	週5～6日	週3～4日	週1～2日	月に 1～3日		
総数	100.0	51.0	24.2	6.8	6.7	6.5	6.3	20.8	27.3

注: 総数には飲酒の状況不詳、「飲む」には飲酒の頻度不詳を含む。

図7 第1回の家計支出額 (単位:%)

	第1回の家計支出額							
	総数	10万円 未満	10～20 万円未満	20～30 万円未満	30～40 万円未満	40～50 万円未満	50～60 万円未満	60万円 以上
男	100.0	1.7	10.9	24.0	24.9	13.1	6.8	6.0
女	100.0	1.9	14.0	26.2	24.0	10.7	5.4	4.7

注: 総数には家計支出額の不詳を含む。

用語の定義

「調査年」

「第1回」～「第4回」とは、それぞれの回の調査で把握した項目で、各調査年は次のとおり。

第1回(第1回調査) 平成17年

第2回(第2回調査) 平成18年

第3回(第3回調査) 平成19年

第4回(第4回調査) 平成20年

「配偶者」「夫婦」

事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない者も含む。

「同居者の構成」

同居している者の続柄から分類している。「単独世帯」「夫婦のみの世帯」以外は、兄弟姉妹やその他の親族がいる場合を含む。親には配偶者の親も含む。

「単独世帯」

配偶者の有無を問わず、本人以外に同居者がいない場合

「夫婦のみの世帯」

本人と配偶者以外に同居者がいない場合

「三世代世帯」

本人が親・子と同居している、または本人が子・孫と同居している場合

「親あり子なしの世帯」

本人と親が同居していて、子がいない場合

「親なし子ありの世帯」

本人と子が同居していて、親がいない場合

「その他の世帯」

上記以外

介護の状況

「ずっと介護をしている」

第1回から第4回まで、調査時に介護を「している」と回答した場合をいう。

「介護あり→なし」

第1回に介護を「している」者のうち、第4回までに介護を「していない」となった場合をいう。第2回で介護を「していない」、第3回で「している」と回答した場合は、介護の状況「その他」として

「介護なし→あり」

第1回に介護を「していない」者のうち、第4回までに介護を「している」となった場合をいう。第2回で介護を「している」、第3回に「していない」と回答した場合は、介護の状況「その他」として

「第4回から介護をしている」

第1回から第3回まで介護を「していない」者のうち、第4回までに介護を「している」となった場合をいう。

「ずっと介護をしていない」

第1回から第4回まで、調査時に介護を「していない」と回答した場合をいう。

「健康維持のための費用」

調査年の10月中に支払った、次のような費用をいう。

人間ドックや健診(健康診断や健康診査)の受診費用、予防接種の費用、スポーツジムなどの利用料金など

「仕事をしている」

ふだん収入になる仕事をしていて、今後も仕事をしていくことになっている場合をいう。

「仕事をしていない」

パート・アルバイト、内職等も全くしていない場合をいう。

就業状況

「ずっと仕事あり」

第1回から第4回まで、調査時に「仕事をしている」と回答した場合をいう。仕事をやめた後、別の仕事に就いている場合を含む。

「就業」

第1回に「仕事をしていない」者のうち、第4回までに「仕事をしている」となった場合をいう。第2回で「仕事をしている」、第3回に「仕事をしていない」と回答した場合は、就業状況「その他」として

「退職」

第1回に「仕事をしている」者のうち、第4回までに「仕事をしていない」となった場合をいう。第2回で「仕事をしていない」、第3回で「仕事をしている」と回答した場合は、就業状況「その他」として

「(再掲)定年退職」

仕事なしとなった回の仕事をやめた理由に「定年のため」と回答した者で、その後仕事をしている者を含まない。

「ずっと仕事なし」

第1回から第4回まで、調査時に「仕事をしていない」と回答した場合をいう。前回の調査から次の調査までの間に仕事に就いて、調査日までに仕事をやめた場合を含む。

「離職」

調査年の前年11月～調査年の10月までの1年間に、収入を伴う仕事をやめた経験をいい、仕事をやめた後、現在別の仕事に就いている場合を含む。

「定年のため離職」

仕事なしとなった回の仕事をやめた理由に「定年のため」と回答した者で、その後仕事をしている者を含む。

仕事のかたち

「自営業主」

個人経営の商店主・工場主・農業主等の事業主や開業医・弁護士・著述家・行商従事者等をいう。

なお、法人組織(株式・合資・合名の各会社)になっている商店の経営者の場合は、「会社・団体等の役員」としている。

「家族従業者」

農家や個人商店等で農作業や店の仕事等を手伝っている家族をいう。

「会社・団体等の役員」

会社の社長・取締役・監査役、団体の理事(長)・監事、公団や事業団の総裁・理事等をいう。

なお、部長、課長等のいわゆる管理職の場合は、理事等の役員になっていなければ、含まれない。

「正規の職員・従業員」

会社・団体・官公庁・個人商店等に雇用期間の定めなく雇われている人をいう。

「パート・アルバイト」

就業時間や日数に関係なく、勤務先で「パートタイマー」「アルバイト」または、それらに近い呼称で呼ばれている人をいう。

「労働者派遣事業所の派遣社員」

労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている人をいう。

「契約社員・嘱託」

専門的職種に従事させることを目的に契約に基づき雇用されている人や雇用期間の定めのある人、労働条件や契約期間に関係なく、勤務先で「嘱託職員」または、それに近い呼称で呼ばれている人をいう。

「家庭での内職など」

家庭で賃仕事をしている人をいう。

「その他」

仕事のかたち「自営業主」～「家庭での内職など」以外をいう。

「家計支出」

調査年の10月の世帯における家計支出をいう。

飲食費、住居費、光熱・水道費、家具・家事用品費、被服費、保険医療費、交通通信費、教育費、教育娯楽費、交際費、仕送り、生命保険料・損害保険料、その他の諸雑費などの支出で、税金・社会保険料、借金や住宅ローンなどの返済、クレジットカードなどにより購入したものの月賦払いも含む。

「借入金」

調査日における借入金をいう。

土地・家屋の購入、耐久消費財の購入、教育資金などに充てるために借り入れたもので、金融機関のほか、勤め先の会社、共済組合、親戚・知人からのものも含む。

「預貯金」

調査日における預貯金で、下記のもものが該当する。

- ・金融機関への貯金(預金)
- ・生命保険、個人年金保険、損害保険、簡易保険のこれまでに払い込んだ保険料
(掛け捨ての保険は除く)
- ・株式、株式投資信託、債権、公社債投資信託、金銭信託、貸付信託
(株・債権は時価で計算した額)
- ・その他の預貯金(財形貯蓄、社内預金等)

縦断調査の特長

（概況3頁）

表2 配偶関係の変化

(2)最新時点の配偶者の有無

(単位:%)

		性・第4回の配偶関係											
		総数			男			女					
		総数	配偶者あり	配偶者なし	総数	配偶者あり	配偶者なし	総数	配偶者あり	配偶者なし			
(1) 調査開始時点の配偶者の有無	総数	(100.0)	100.0	85.7	14.1	(100.0)	100.0	87.3	12.6	(100.0)	100.0	84.3	15.5
	配偶者あり	(86.5)	(4)	98.0	1.8	(3)	100.0	98.5	1.3	(85.4)	100.0	97.5	2.2
	配偶者なし	(13.3)	(5)	6.3	93.6	(6)	100.0	6.3	93.6	(14.5)	100.0	6.4	93.6
	53・54歳	(100.0)	100.0	86.0	13.8	(100.0)	100.0	85.4	14.3	(100.0)	100.0	86.6	13.4
	配偶者あり	(86.5)	100.0	98.1	1.7	(85.9)	100.0	98.3	1.3	(87.1)	100.0	97.9	2.0
	配偶者なし	(13.3)	100.0	8.4	91.6	(13.8)	100.0	6.8	93.2	(12.9)	100.0	9.9	90.1
	55～59歳の配偶関係	(100.0)	100.0	85.7	14.2	(100.0)	100.0	86.8	13.1	(100.0)	100.0	84.7	15.2
	配偶者あり	(86.5)	100.0	98.1	1.8	(87.3)	100.0	98.4	1.4	(85.8)	100.0	97.8	2.1
	配偶者なし	(13.4)	100.0	6.2	93.8	(12.6)	100.0	6.5	93.4	(14.2)	100.0	5.9	94.1
	60～62歳の配偶関係	(100.0)	100.0	85.6	14.1	(100.0)	100.0	89.1	10.8	(100.0)	100.0	82.3	17.1
	配偶者あり	(86.6)	100.0	97.8	1.8	(89.5)	100.0	98.8	1.1	(84.0)	100.0	96.8	2.6
	配偶者なし	(13.2)	100.0	5.5	94.5	(10.4)	100.0	5.6	94.4	(15.8)	100.0	5.5	94.5

注: 総数には配偶者の有無不詳を含む。

「配偶者がいないこと」と「配偶者がいなくなったこと」には、差があります。

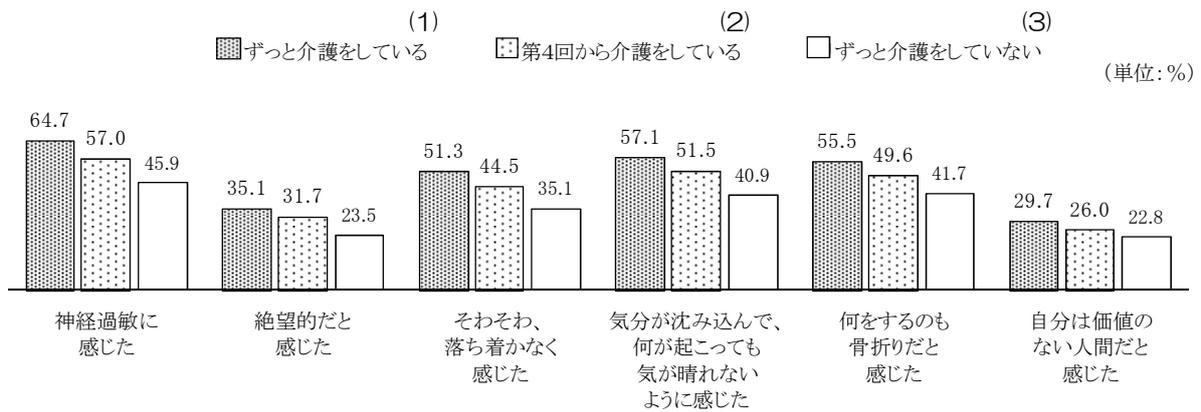
通常の調査では、ある一時点の状態を調べます。このため「配偶者がいる人」と「配偶者がいない人」の区別ができるだけで、それぞれの割合しか分かりません。時間をおいて同じ調査を行っても、「配偶者がいる人」と「配偶者がいない人」の割合の変化が分かるだけです。

同じ人を追いかけて調査する**縦断調査（パネル調査）**では、調査開始時点⁽¹⁾で「配偶者がいる人」、「配偶者がいない人」に分けておきます。そして、最新時点の調査⁽²⁾でも「配偶者がいる人」、「配偶者がいない人」に分けます。

この二つの時点での情報を組み合わせると、「調査開始時点で配偶者がいた人」のうちどれだけの割合が「配偶者のいない人」に変わったか⁽³⁾が分かります。また、「配偶者がいる」という状態が続いた人⁽⁴⁾の割合も分かります。同様に、「調査開始時点で配偶者がいなかった人」のうちどれだけの割合が「配偶者のいる人」に変わったか⁽⁵⁾が分かります。また、「配偶者がいない」という状態が続いた人⁽⁶⁾の割合も分かります。

別の角度から分析すると、最新時点で「配偶者のいない人」のうち、どれだけが調査開始時点では「配偶者がいる人」であったかが分かります。

(概況 7 頁) 図 4 第 1 回からの介護の有無別にみた過去 1 か月間に感じたことの割合



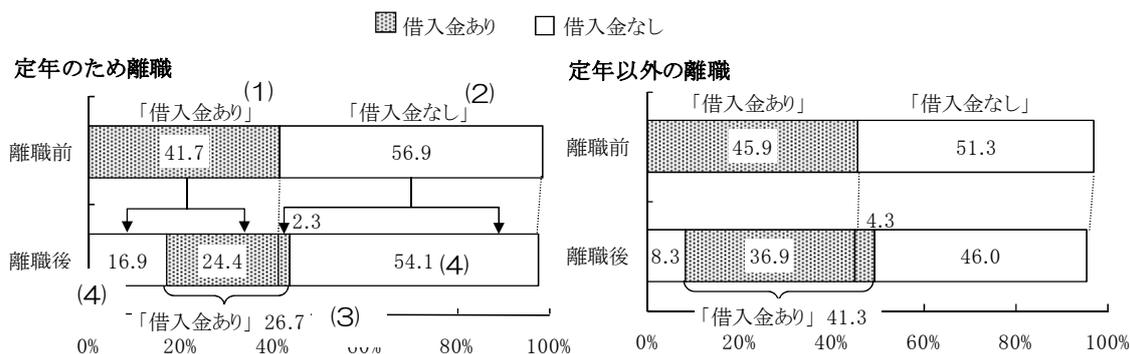
注：各項目に「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」と回答した者を集計。

「介護をしていること」と「介護を始めること」、「続けること」の三つには、差があります。

通常の調査では、ある一時点の状態を調べます。このため「以前から介護を続けている人」も「今回介護を始めた人」を区別することができず、「現に介護している人」にまとめざるをえません。そして集計結果は「現に介護している人」の精神状態がどのようなものかだけになってしまいます。

同じ人を追いかけて調査する縦断調査（パネル調査）では、「現に介護している人」を「以前から介護を続けている人」⁽¹⁾や「今回介護を始めた人」⁽²⁾などに分けることができます。さらに、「調査開始以来一度も介護をしていない人」⁽³⁾も選び出すことができます。

図 1 4 離職前後の借入金の有無



- 注： 1) 第1回から第4回までに仕事をやめた経験がある者についての集計で、その後仕事ありとなった者を含む。
 2) 総数には借入金の有無不詳を含む。
 3) 「離職前」とは、仕事をやめた経験があった前の回の状況である。
 4) 「定年のため離職」とは、仕事をやめた回の離職理由に「定年のため」と回答した者をいう。

「定年退職の直前、直後」と「定年退職したことがない、定年退職したことがある」の二つには、
 差があります。

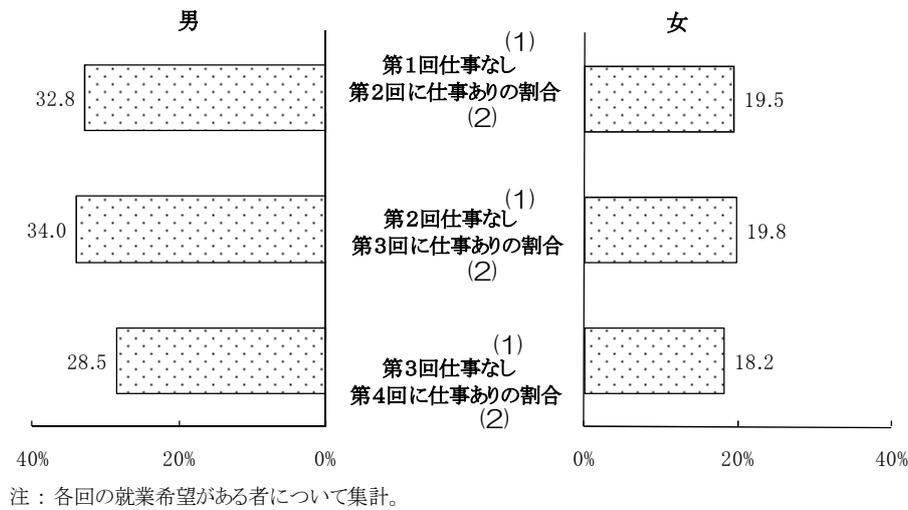
通常の調査では、ある一時点の状態を調べます。このため「定年退職したことがない人」と「定年退職したことがある人」の区別ができるだけです。この二つのグループの借入金があるか、ないかの割合が分かるだけです。

仮に「定年退職したことがある人」から「直前に定年退職した人」を選び出せたとしても、その時点で借入金があるかが分かるだけであるのが普通です。

同じ人を追いかけて調査する**縦断調査（パネル調査）**では、調査と調査の間に「定年退職したか」どうかを把握することができます。そして「定年退職した人」を定年退職前に借入金があったか⁽¹⁾、なかったか⁽²⁾と、退職後に借入金があったか⁽³⁾、なかったか⁽⁴⁾で、4つに分類することができます。

このように定年退職（結婚、出産、就職など他の出来事でも同じです。）の直前、直後の比較ができるのも縦断調査の長所です。

図16 就業希望がある者の仕事ありの割合



「前回就業を希望していて、今回仕事がある」と「今回仕事がある」の二つには、差があります。

通常の調査では、ある一時点の状態を調べます。このため「今回仕事がある人」と「今回仕事がない人」の区別ができるだけです。

同じ人を追いかけて調査する**縦断調査（パネル調査）**では、前回調査で「就業希望があるか」どうか①を把握しておきます。今回の調査で「仕事があるか」どうか②を把握します。すると、前回就業を希望していた人のうちどれだけの人が今回仕事があるかが分かります。今回仕事がない場合も、前回就業を希望していて仕事がない、前回就業を希望していなくて、仕事がないでは意味が違います。

このように前回の希望が叶ったかどうかを把握できるのも縦断調査の長所です。

